

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3291500035		
法人名	株式会社あゆみ		
事業所名	グループホームあゆみの杜		
所在地	島根県飯石郡飯南町頓原1070		
自己評価作成日	令和1年11月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和1年11月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

※「ともに歩み、ともに生きる」住み慣れた自宅を離れ、住み替えという選択となっても自宅の延長線上と考え、穏やかに一人ひとりがその人らしくいられる場所をつくっていきます。  
 今後、地域の中でのその方を見つめ、「どうありたいのか」という思いを大切に、家・地域の方等と「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」関わっていきます。  
 ※季節ごとに楽しんで頂けるような、イベントを計画しています。  
 ※地元のイベントにも積極的に参加し、地域の皆様との交流を深めています。  
 ※全館床暖房を採用しており、豪雪地帯の頓原にあっても、冬も暖かく過ごして頂けます。  
 ※お風呂は隣接する頓原ラムネ銀泉のお湯を利用しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は、グループホーム、小規模、有料の全ての利用者の状況を把握し、ローテーションを組んでケアに当たっている。利用者の思いをどう実現するか、ということに力を入れて取り組んでいて、以前よく行っていた店に行き好きな物を吞んで食べて楽しみたい、という利用者の声から居酒屋に出かけることを実現させた。店の人の協力もあり食べやすい盛りだくさんの料理を並べ楽しんでもらった。また、職員の提案から「調理レク」を実現し、一緒に豚汁や芋煮、餃子作りなどを行っている。家族とも夜の家族会を行い家族の情報や思いを聞き良い関係づくりにつながっている。人材確保のために町や関係者と協力し合っており取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につく所に理念を掲げ、毎年理念をふまえた上での個人目標も立ててもらい実践している。所長からの面接の際にも、理念について話がある。又、自己目標を記入する用紙にも理念を記入する箇所がある。	職員は毎年理念に沿って年間目標を立て、振り返りをしながら実践することに努めている。職員は理念をプリントした色とりどりのユニフォームを着て働いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1度、感謝祭を開催し地域の方に来訪して頂いている。また地域の方にボランティアとして協力して頂いたり、野菜や特産物を売るブース等出店して頂き交流を図っている。	保育園児や小・中・高校生との交流、出身地区の祭りなど地域の催し物への参加、事業所の「感謝祭」などを通し、地域の人との関係を築き利用者の生活を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の高校生の福祉体験学習の受け入れも、認知症についての基礎知識の講習会を行ったり、高齢者への関わりについて体験して頂いている。地域の方に向けての取り組みは行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回推進会議を開催し、貴重な意見を頂いている。改善出来る所は可能な限り改善に向け取り組んでいる。議事録をスタッフルームに置き、全職員が目を通すようにしている。	小規模多機能ホームと合同で開催し、利用者の状況や活動、研修などを報告し委員から情報提供を受けたり助言を受けサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回行われるサービス調整会議に出席し、現状等を報告し合っている。また、飯南町介護福祉部会・福祉施設協議会にて関係機関で協力しサービス向上の為に研修等計画している。	町の福祉施設協議会や地域包括ケア推進局の会議などで事業所の実情を伝え情報交換を行い関係機関と連携して取り組んでいる。人材確保の取り組みも町や社協などと協力して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部から講師を招き、研修を行った。所長・次長より昼礼の際に全職員に身体拘束について常に声掛けをしている。	研修会や職員会議で内容を理解し、センサーや「ちょっと待って」などの言葉についても話し合っている。現在、リーダー研修受講中の職員が自施設実習中でみんなで学習を積んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年4月に虐待について研修会を行なった。声掛けや対応については、皆で注意しながら今後も改善していかなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおられるが、詳細について理解している職員は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネが契約時に書面を通して十分説明をし、疑問点があればその時や後日にも話しをして頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度家族会を計画し、職員との交流を図り顔を知ってもらう事で面会時等、家族の方が話しかけやすい雰囲気作りに努めている。年1回アンケートを実施し、結果を全職員が目を通せるようにしている。	年1回、アンケートを実施し家族の意向の把握に努めている。毎年6月には夜の家族会を開き半数以上の家族が参加している。今年で4回目を迎えた。家族の情報や思いを聞く良い機会になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は職員会や屋礼にて意見提案出来ている。意見については主任会等で話し合いをした上で社長・所長・事務長にて協議し反映されている。	職員会議や「連絡ノート」、日常の業務の中でも意見を聞き、意見を受けて「調理レク」など実現させている。管理者は年2回職員の個人面接を行い思いを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家族の状況を考慮し、時間短縮等の対応をしている。月1回年休を取れるようにしている。給与表や資格手当を明確にし、各自が向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受けたい研修があれば希望するよう伝えている。スキルアップの為に研修を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方と交流する機会があれば研修や交流会など多くの職員に声掛けし参加してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前から担当されているケアマネから情報を聞いたり、面会にて本人さんにお会いして会話しながら信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	以前から担当されているケアマネを通じて電話・実際にお会いして話しをする等しながら少しずつではあるが関係づくりに努めている。地域の方の入居が多く、以前から顔見知りでもある為、相談しやすい環境である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで利用されていた計画書を理解しながら、本人の状態観察し意向を聞きながら思いに添えることができるようにサービス対応に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人さんと会話・コミュニケーション作りが出来るように、何事も一緒に活動するように心掛けている。会話を繰り返し、日常の様子を観察しながら「出来る事」を見極めができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での行事に参加して頂いたり、病院受診・日常生活の状態報告し、情報共有しながら本人を支える努力をしている。本人の1番の味方は家族と捉えているので、話しが出来る機会があれば加わるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の行事に出掛けたり、実家のお墓参り、昔の写真を見られたりして本人が思い出せる支援に努めている。	出身地区の祭りに参加したり、利用者の昔の話を聞くなど、馴染みの人や場との関係を大事にし支援している。運営する他事業所を利用する馴染みの人とも交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の積極的に会話等される事もあるが、不十分な方については職員が会話の援助しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には取り組んでいないが、町で会う機会等があれば声をかけ、近況を伺うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前からの情報を元に、家族・本人から意見や希望を聞いている。また本人の状態を観察し、担当者会等で話し合いをし検討している。	利用者の思いをどう実現するか、ということに力を入れて取り組んでいる。家族からの情報収集や利用者との会話、職員の気づきなどから検討し思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族さんからの情報収集を行い把握している。また本人との会話の中で新たな情報収集も出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、出来るだけ一人ひとりと関わる時間を作り、その中で出来る事と出来ない事の把握に努めている。また、記録を見たり職員間で意見交換し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当からの毎月のモニタリング、担当者会等で課題等の検討し、意見を出しながら情報の共有に努めている。家族の方の面会があった時には、本人や家族の意向を聞いている。	担当職員がモニタリングを行い、ケアマネージャー、看護師、担当職員が毎月評価をしている。状況変化時には利用者、家族の意向を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中で、一部の入居者は担当職員からの気づきや本人の様子が細かく記録してあるので他職員と情報交換しながら、介護計画の見直しが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に対し、必要があれば都度対応している。また、その方に必要と思われる支援であれば、出来る方法を検討し実施できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から馴染みのある居酒屋に行ったり、散髪や外食にも出掛け、本人が必要とする資源は活用できていると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要があれば、家族の方にも同行してもらい、かかりつけ医に診て頂いている。状態を見て、往診対応にして頂いている方もいる。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を受診し、状況によっては往診の対応をしてもらっている。家族が付き添う場合も職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師・介護職がともに重篤化しないよう早期発見・早期治療を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは主にケアマネが情報交換し、本人の様子や状態を伝えている。他職員も面会時に病院看護師より状態を聞いている。必要に応じて退院前のカンファレンスもお願している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期受診に家族の方にも一緒に受診して頂き、病院・家族と話し合う機会が持てている。早い段階より、家族・主治医と話し合いをしながら施設で出来る事を十分に説明し方針を立てている。	医療的なケアが必要になった場合は家族、医師、関係者が話し合い対応を決めている。家族アンケートでは看取りに対しての家族の意向を聞く項目も設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救命救急の講義を受けて、再確認出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、今年は地震からの火災を想定した訓練を行い、地震が起きた時の注意点等確認出来た。災害時、地域の方の受け入れも考えている。専門職からの指導を受け、身に付ける努力はしている。	年2回、地震、火災を想定した訓練を実施し運営推進会議の地域の委員も参加している。地震や地域柄雪が心配されるので石油ストーブを準備したりガスボンベの固定を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話に耳を傾け、不安にならないよう心掛けながら対応している。気になる声掛けがあれば職員同士、注意するよう努めている。	トイレに誘導する時は声の大きさに気をつけるなど、プライバシーを損ねない声かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のやりたい事や行きたいところなど、きちんと対応できるか他の職員と話し合いながらできている。 日常生活の会話の中から希望を確認し、なるべく希望に添えるよう計画・実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりの今の気持ちを考えながら、職員の都合を利用者に押し付けないよう、本人のペースを大事にしながらか対応出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったものを着て頂くよう、考えながら対応し、希望によって散髪に行ったり、来てもらったりと整容・整髪は基本として気をつけている。利用者さんの好みに合わせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材を使った献立を立て利用者一人ひとりが食べやすく楽しく食事ができるよう心掛けた。利用者の方と一緒に食事を作って食べる食事イベントを計画し実行できた。	基本的には手作りをしているが、週に2回位、計画を立てて外部委託をしている。職員の提案を受けて調理レクの日を設け、一緒に豚汁や餃子などを作り楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や1日の水分量などを把握し、その方に合った形態や好みの水分などで摂ってもらったりしている。その日の体調や気分に応じて無理のないように気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。口腔ケアが難しい方にはスポンジ等を使って口腔状態を清潔に保っている。自分で磨ける人にはしてもらい、仕上げは職員がするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人さんにあった排泄のパターンや紙パンツやパッド等の排泄用品を必要時、話し合いながら変更し評価できている。	利用者に合わせ声かけや見守りをしてトイレで排泄できるように支援し、その人に合わせた排泄用品を使用している。夜間おむつを使用する人も日中はトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂って頂けるような声掛けし、飲みにくい様であれば、本人の好みの物を提供し摂取して頂いているが、便秘時には看護師に報告し、下剤調整・浣腸・腹部マッサージ等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉の湯を使用し、個々の対応で話をしたりリラックスして入浴してもらっている。本人の気分が乗らない時には、時間や日にちをずらして対応し、出来るだけ「気持ち良かった」と思ってもらえるよう心掛けている。	温泉の湯を汲み楽しんでもらっている。利用者の状況によっては時間や日にちを替えタイミングを見て支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを考慮し休息して頂いている。本人さんの気分や状態によっては居室やホールのソファで休んでもらっている。不穏時には寄り添って話を聞き、安心してもらえるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状によって、薬の目的は理解出来ており、飲み忘れや誤薬しないようチェックしている。個人ノートに処方された薬の確認ができるように貼付している。症状に変化があれば看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや畑の作物の収穫など、出来る事を手伝って頂いている。また、個々に買い物に出かけ好きなものを購入するなどし、気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	どうやったら楽しんでもらえるか考えながら毎日難しいが、散歩や買い物など外出の希望があれば出掛けられているが、一部の利用者に限られている。家族の協力を得ながら、外出の機会を増やす努力をしている。	外食や地域の祭り、行きつけの美容院、花屋などに出かけている。今年度は茶話会での話をきっかけにみんなで夕方から居酒屋に出かけ、楽しい時間を過ごせるよう支援した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理する事になっている為、本人は所持はしていない。希望があれば地元のスーパーへ一緒に買い物へ出掛けている。外出が難しい方に対しては代行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けてほしいと訴えられた時は各家族の状況に応じ、対応している。希望があれば電話される事もあり、家族からかかってきたものにも本人が対応され話しされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にある花を飾ったり、壁面アートを作成している。必要に応じて照明も調整している。夏は日差しが強いので、すだれを使用している。ホールに温湿度計を設置し、換気や消毒等、感染予防にも努めている。	季節の花や写真を飾っている。テーブルの配置を工夫したり、ソファを設置し思い思いに過ごせるようにしている。日差しや温度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下へのソファの設置を行い、一人ゆったり座って過ごされたり、他者と話しをされたり、気の合う利用者同士で座って思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安全に生活しやすいように介助バーやトイレ設置は都度工夫している。施設で手作りの写真付き誕生日カードや本人が塗られた塗り絵の作品を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	家と同じように使い慣れた家具や趣味の抹茶茶碗、写真などを持参してもらいその人に合わせた環境づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活出来るように歩かれるところにはなるべく物を置かない様にしている。手すりが必要な所には、相談し設置している。希望があれば、居室入り口に表札をつけている。トイレも分かるよう表記している。		